みどりのはっぱ

Vo.6

【発行者・所在地】
グリーンポスト事務局
大阪市西区土佐堀１－６－３ JAM 西日本会館
☎06-4963-0003

☆グリーンポスト第１６回理事会開催！

去る五月二十三日（土）あまの井（大阪市中央区）にて開催しました。

グリーンポストの活動も６年が経過し、《二〇〇九年一二月設立》昨年十一月には、大目標であった学校建設の夢を実現しました。

詳細はホームページで掲載。（グリーンポスト検索）

今理事会の議題には、カンボジア王国の小学校建設の評価・反省と今後の活動について、会員拡大並びに募金箱等の基金運営状況報告、ホームページの更新などが上がり、今後の運営について議事進行しました。

また、会計報告も確認了承されました。

本年は役員改選の年ですが、全員再任され、会長職を廃止し、顧問職を創設しました。（別記）

募金箱のデザイン刷新（ＱＲコードの配置）とホームページの更新。会員拡大を３００名を目標とし、早急に１００名としたい。会員拡大策の検討。

また、支援者の拡大で寄付金を増やしていく。

第３回チャリティコンペを五月三十日（土）開催しました。

今後、グリーンポスト交流会を実施。本年は七月頃の予定です。

各行事への参画をよろしくお願いします。

二十七年度以降の目標

「ラオスに移動図書館と絵本を寄贈する。」

達成は３年間を目途とする。

目標達成のために

①会員の拡大

②基金箱・チャリティー等の募金拡大活動

③新規事業の着手

会員の拡大は３００名を目標に、ホームページの更新、チャリティゴルフコンペ定例開催する。

（社）グリーンポスト交流会を新設する。

シャンティ国際ボランティア協会が提供している移動図書館と絵本

（社）グリーンポスト役員

理事長	高橋 秀直
副理事長	酒井 信夫
常務理事	上田 順三
理事	橋本 聖
理事	酒井 弘
理事	坂根 元彦
理事	中村 英次
理事	松本 昇浩
理事	森山 道朗
理事	城戸 勝昭
理事	田川 兆伸
監事	今井 知子
顧問	相馬 達雄

【第３回グリーンポストチャリティーコンペ開催】

平成二十七年五月三十日（土）ルート２５ゴルフクラブにおいて、参加者十九名により第二十四回タコンズ杯（代表幹事田嶋靖彦）とのダブルコンペで開催しました。

今回のタコンズの会の皆さんのご厚意で、ｗコンペとして開催させていただきましたことを心より感謝申し上げます。

当日の皆さまから頂戴しました基金七千百二十円はラオスの移動図書館基金として使わせていただきます。ありがとうございました。チャリティコンペの成績は、西嶋義雄さんが優勝、準優勝が園田龍一さん、三位が西本孝也さんとなりました。おめでとうございます。

また、ご参加いただきました皆さまありがとうございました。第四回から会員の皆さまにもホームページでお知らせいたしますので、是非ご参加くださいますようお願いします。

グリーンポスと会員限定
萬栄会員カード発行（年会費無料）

株式会社萬栄とはどんな会社？

所在地：大阪市中央区南久宝寺町３-３-１１

総合商社として、事業展開（繊維製品・生活用品の卸売）

○資本金６６００万円

○売上高　３５６億円

○従業員数５８４名

通常は小売店卸として営業していますが、グリーンポスト会員は、希望により萬栄会員カード・家族カードが発行できます。

お問合せは、グリーンポスト事務局まで

ラオスの子供たちに移動図書館を

ラオス人民民主共和国とは

・国の概要／ラオスは、縦に流れるメコン河の中心に位置し、国の周囲を真上から左回りに、中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの５つの国に囲まれている内陸国です。国土面積は日本の本州に相当する約２４万ｋ㎡、国土の約４０％は山岳地域になり、チベット高原東部を源流とするメコン河がラオス国の北から南に向かって縦断しています。人口は６７０万人、その１２％に当たる約７８万人が首都のヴィエンチャンに集中しています。ラオス国の宗教は仏教が中心になり、１村毎に１寺院が建てられています。

・経済／２０１３年度の国民一人当たりの国内総生産（ＧＤＰ）は１６４６米ドルまで伸びましたが、未だに教育分野における国家予算の７割を諸外国からの援助に依存し続け、予算不正等の問題が絶えないなど、経済の面においても解決が難しい課題が多くなっています。

・人口／ラオスは全人口の約半数が少数民族になりその半数が４９の少数民族に分かれているという複雑な構成になっています。国の公用語であるラオス語を母語とするラオ族が人口割合の半分を占め、それ以外には、モン族、カム族、ンゲ族、カタン族等になります。少数民族の家庭に生まれ、テレビもラジオも新聞もない環境で、生まれながらに独自の少数民族の言語で育ってきた人々は、ラオスの公用語であるラオス語の読み書きが難しいのが現状です。

今回、移動図書館の配備を検討しているヴィエンカム郡には、多くの少数民族が暮らし、彼らは独自の言語で生活しています。この土地に生まれた子どもたちも、それぞれの少数民族の言語で育てられます。そのため、小学校に行ける子どもたちだけが、学校にある教科書を開いて、初めて公用語であるラオス語を目にします。少数民族の独自の言語で育った子どもたちにとって、公用語は第二の言語となります。通常の初等教育であれば、小学校の低学年で慣れ親しんだ言語（母語）の基礎固めを行い、高学年になって母語の応用力を身に着け、その後に、第二の言語の習得に進みます。日本の例を挙げてみますと、母語は日本語になり、第二の言語は小中学校で学ぶ英語になります。

ヴィエンカム郡の多くの教員は、ラオス語を第二言語として少数民族の子どもたちに適した授業を行うための知識と技術を習得していません。状況に対応していない授業は子どもたちのやる気を失わせ、子どもたちは次第に学校への興味も失くしその結果、退学や留年の数値を高くすることとなっています。

私たち（社）グリーンポストは構成メンバーと会員の皆さま、そしてご支援してくださるサポーターの方々と一緒になって、ラオスの地に移動図書館を走らせたいと思っています。

小学校に行くことができないラオスの子供たちに、ささやかでも勉強の機会を持っていただきたいと願います。応援よろしくお願い申し上げます。

グリーンポストの小さな旅（交流会）開催

第十六回グリーンポスト理事会において決定した会員交流会を実施しました。

七月二十一日から一泊二日の小旅行で、朝の十時三十分に大阪駅集合し、出発。新快速電車で三回乗り換えて、下呂温泉小川屋まで行きました。

参加者は八名。年齢は全員六〇歳以上でしたが、楽しいひと時になりました。

六五歳を超えられた方はＪＲジパングクラブの会員になられ方が旅費はお得でした。

次回は会員の皆さんにもホームページでご案内申し上げます。第２回は道後温泉まで列車の旅を検討していますが、皆さんのご意見ご希望をお聞きしますので、よろしくお願いします。

※お知らせ

基金募金箱を設置されている方々に感謝状を手交しました。

基金確保のために、基金箱を設置場所の提供をお願いします。

第一回の回収は約６万円、第二回は約７万６千円の基金をいただいております。

これからも皆さまの参加をお願いします。